〔Ⅱ〕中学・高校における論理的文章の表現指導

―読解指導と関連させて―

米　山　　誠

1. 指導の目標・対象・方法

(1) 指導の目標

①文章の種類は別として，一般的にみて，文章を「読む」ことと「書く」こととに対する生徒たちの興味の度合には大きな差がある。名大附属中学・高校の場合，「読む」ことの好きな者は，中学において68%，高校において62%を占める。一方，「書く」ことの好きな者は，中学において36%，高校において34%に過ぎない。(㊟ 1977.3，中1・2，高1・2対象，「読み書きの好き嫌いに関するアンケート」の結果による。)

作文教育を進めるうえで，このような生徒の「読む」ことへの興味を，「書く」ことへの興味・意欲の方向に発展させるような指導をめざした。

②評論・論説教材に接するとき，詩や小説に比べてむずかしい，親しみがもてないと感じる生徒が多い。まして，その種の文章を書くことなど，自分には無縁であると感じる生徒が多いのは当然のことかもしれない。国語教育において，このような論理的文章の表現能力を養うことが，きわめて重要であることは今更言うまでもない。生徒に，評論・論説に対する積極的な関心をもたせるためには，まず，生徒の関心を喚び起こすような評論・論説教材を，豊富に選んで用意し，生徒の実態に即した読解指導を活発に進めなくてはならない。その読解と関連させて論理的文章の表現意欲を育てつつ具体的な表現活動を指導することとした。

③中学・高校の各「学習指導要領」の「書くこと」に関する項のうちでは，特に次の事項に重点を置いた。

○「ものの見方や考え方を広くし，自分の考えを大事にして，文章を書く態度を身につけること」○「自分の考えをまとめ，主題や要旨に沿って必要な材料を集め，適切に用いること」○「論点を整理し，段落に分けて，論理的効果的に文章を構成すること」○「書いた文章を推敲してよりよくする態度と習慣を養うこと」

要するに，論理的な思考力，構想力を育て，明晰・正確な文章表現力を身につけさせるということである。

(2) 指導の対象

52年度名大附属中学2年生，81名（男子39・女子42）
（「国語」週5時間中の2時間担当）

52年度名大附属高校2年生，134名（男子63・女子71）
（「現代国語」週2時間担当）

(3) 指導の方法・経過

①中・高とも，1学期中，生徒それぞれに，自分の書きたいと思う文章の主題を考えさせ，構想を練らせた。②1学期の事前指導に従い，夏休み宿題として，自由題で自由な長さの評論・論説（意見・主張）文を1編ずつ書かせた。中学・高校生なりに考えたことを自由に伸び伸びと表現させることを主眼とした。③提出させた全作品を添削して返却し，生徒各自又は相互に推敲させた。④2学期後半と3学期には，いわゆる課題小論文式の文章を書かせ，自由題評論・論説文の場合との比較を試みた。

2. 評論・論説（意見・主張）教材の読解指導

評論・論説等の論理的文章に興味を抱かせ，書く意欲を起こさせるという目標をもって，授業でとり扱った教材は大体以下のものである。生徒の使用教科書（中2は「三省堂・国語2，52年度版」，高2は「筑摩・現国2，52年度版」）の教材と，使用教科書以外から選び，印刷して配布したものとを適当に組み合わせて用いた。

（中2）

①「アンネの日記」（アンネ・フランク）≪教科書≫
②「ぼくの住む町」（生徒作品）≪教科書≫
③「個性的に生きる」（丸木政臣）≪東書「国語3」52年度版より≫
④「市バスの優先席に思う」他（生徒作品）≪東書「国語3」52年度版より≫
⑤「可能性をゆたかにのばすために」（斎藤喜博）≪斎藤喜博「君の可能性」筑摩書房より≫
⑥「日本人のコミュニケーション」（加藤秀俊）≪教科書≫

（高2）

①「ラムネ氏のこと」（坂口安吾）≪教科書≫
②「"である"ことと"する"こと」（丸山真男）≪筑摩「現国3」47年度版より≫
③「現代日本の開化」（夏目漱石）≪同　上≫
④「私の個人主義」（夏目漱石）

≪尚学「現国1」45年度版より≫

⑤「現代の病」(伊東光晴)≪教科書≫

⑥「自然と人間」(柏原兵三)

≪尚学「現国1」52年度版より≫

以上の教材以外に，中・高共通に，教材と関連のある最近の新聞記事を印刷して配布し，その要旨の把握，内容の解釈などの資料とした。(㊀『朝日』の「今日の問題」8/13，8/15，8/20，8/31，「天声人語」8/30，9/2，9/3，9/4，「日記から」9/1，9/10，9/18，『毎日』の「憂楽帖」9/1，9/2 等)

上記教材の読解指導について具体的に述べたいが，紙面の余裕がないので，2，3の教材に対する生徒感想の一部のみ記しておきたい。

＜「個性的に生きる」(丸木政臣) について (中2)＞

○「個性的に生きるということは大事なことだとぼくは思う。満ちあふれるような個性を身につけたい。この文章は，今のぼくたちに対して欠かせないものを，身につけさせようとしているのだと思う。」(男)

○「個性的に生きる――そんなことを言ったってむりです。ある程度の個性は発揮できるし，自己主張もできます。でも，今の日本の常識から考えると，"あの人はいばっている"，"近頃の若者は変な格好をする"などと言われ，とても思いきった個性は発揮できないし，自己主張もできません。」(女)

＜「ラムネ氏のこと」(坂口安吾) について (高2)＞

○「独特の言い回しで，これが評論文とは信じられないという感じだった。なぜなら，評論・論説のたぐいは，昔から数学の問題を解くように難解で，倫社の授業のようにおもしろくないものだときめつけていたからだ。だが，この文章はぼくのそういう概念をうち破り，評論文の新しいおもしろさを教えてくれたという気がする」(男) ○「結論を出すまでの過程のいろいろな例文がおもしろかった。考えれば考えるほど深みがわかり，おもしろくなるんだなあと思った」(女)

＜「現代日本の開化」(夏目漱石) について (高2)＞

○「私は評論とか論説とか言われるものを今まであまり，読んだことがありませんでした。今度，何枚も配られるプリントを手にしたときは，何とも言えぬどんよりとした気持になっていました。国語は決してきらいではないのですが，どうも小説などに比べると評論系統は興味を失いがちで，固苦しい印象があったのです。しかし，これを読み進めるうちに，漱石の話のペースで自分も考えながら読めるようになりました。そして，同じ読むのでも，小説のように，ただ流れるように読むだけでは，内容がとらえられないことがわかるようになってきたのです。」(女)

＜「私の個人主義」(夏目漱石) について (高2)＞

○「"受験地獄"などとよく言われ，"学歴社会"についての批判も多い現代に，そのままその解決の糸口として提示されるべき考え方だと思った。外の世界に左右されることなく，私たちはもっと自分の内面を，個性をみつめて生きていくべきである……という漱石の考え方は今までそういう問題について考えてきた私には，とても興味深かった。」(女)

3. 評論・論説文に対する中学・高校生の意識

○アンケート実施日―― 1977.7.18

○対　象　生　徒

- 名大附中2年生全員 79名 (男38，女41)
- 名大附高2年生全員 130名 (男61，女69)

A　評論・論説を読むことの好き嫌いについて

	中2		高2	
	男	女	男	女
大好き	1	9	4	0
好　き	12 (34%)	10 (46%)	23 (44%)	17 (25%)
きらい	5	5	12	15
大きらい	4 (24%)	2 (17%)	3 (25%)	12 (39%)
わからない	16 (42%)	15 (37%)	19 (31%)	25 (36%)
	38	41	61	69

＜好きな理由＞

- 中2――①「他人の意見や主張がわかって参考になる」「世の中の新しいことがわかる」「自分の考えを深めることができる」「はっきりした考えをもつことができる」「意見を主張する勇気が与えられる」等。
②「わかりやすい」「文章にむだがない」等。
- 高2――①「小説などに比べて表現がすっきりした感じ」「話の展開のしかたにすじみちがある」「直接的に思想がわかり，日常的社会的状況に即している」
②「筆者の考えや意見を知りそれについて考えるのがおもしろい」「自分が生きていくうえでのことを考えさせられる」「日常なんとも思っていないことを考えさせられたり共感をもてたりするときはうれしい」「はじめはむつかしそうで頭が痛いが読み終えて何かばくぜんとでもわかりはじめるとよろこびを感じる」「社会を鋭く衝くのがおもしろい」等。

＜きらいな理由＞

- 中2――「小説のようなおもしろさが感じられない」「読んでいるうちにわからなくなってしまう」「固くるしい」等。
- 高2――「小説に比べ余裕がなくぎすぎすした感じ」「固くるしく理解しにくい」等。

B　評論・論説を書くことの好き嫌いについて

	中　2		高　2	
	男	女	男	女
大好き	2 } (26)	8 } (42)	0 } (10)	0 } (15)
好　き	8 %	9 %	6 %	10 %
きらい	5 } (26)	6 } (24)	26 } (64)	26 } (62)
大きらい	5 %	4 %	13 %	17 %
わからない	18 (48%)	14 (34%)	16 (26%)	16 (23%)
	38	41	61	69

＜好きな理由＞

• 中2――「自分の考えていることを主張できる」「書くことがたのしい」「自分の考えをまとめることができる」「文章に書くと自分の心の中がわかるようになる」等。

• 高2――「自分の意見を述べることができる」「自分の考えを組み立てるのは疲れるが好き」「内向的なので欲求不満の解消となる」等。

＜きらいな理由＞

• 中2――「文章を書くことがきらい」「資料を整理しなくてはならない」「主題が頭にうかばない」「意見がまとまらない」等。

• 高2――「主題がきまらない」「材料に苦労する」「構成がうまくできない」「その種の文章を書いたことがない」等。

C　新聞の「社説」「主張」を読むことについて

	高　2		
	男	女	計
一応毎日読む	0	3 (4%)	3 (2%)
ときどき読む	27 (44%)	30 (44%)	57 (44%)
ほとんど読まない	34 (56%)	36 (52%)	70 (54%)
	61	69	130

D　今後どんな傾向の論説・評論を読んでみたいか

＜中2＞

①自然に関する問題，理科的なもの　(14名)
②中学生の問題，教育の問題　(12名)
③中学生の書いた意見・主張文　(8名)
④人生，生き方，人間，思想等のこと　(6名)
⑤身近な問題，生活的なこと　(5名)

＜高2＞

①身近な興味ある問題　(20名)
②高校生の問題，青春，人生等のこと　(19名)
③現代日本の直面する諸問題　(16名)
④自然に関する問題，科学に関すること　(5名)
⑤夏目漱石の評論文　(5名)
⑥時事問題，社説　(3名)
⑦その他（言語，日本語，宗教，映画，歴史，身分社会，趣味……）　(15名)

4.　評論・論説（意見・主張）文表現指導

(1)　事前指導　夏休みの宿題については，4月に予告をし，6月に，生徒各自の主題，材料，構想などの計画表を提出させたうえ助言した。特に取材と構想とについて，くわしく説明した。

(2)　夏休み宿題の結果

①　作品の題名一覧

紙面の都合上，中・高各1クラス分のみ掲載する。

中2A　(男子)		(女子)	
1	マンガとはなにか	21	私達の自由と両親
2	公害について	22	まんがについて
3	(未提出)	22	本当の友情
4	教室の大きなごみ	24	信頼する喜び
5	本校の学校生活の現状	25	言葉づかいと人間
		26	努力とはなにか
6	宇宙人はいるのか	27	学習塾に思う
7	富士山に思う	28	テストについて思う
8	クラブについて	29	優先席と老人
9	(未提出)	30	友　情
10	ソ連の2百カイリ問題を考える	31	現在の世の中
		32	本について思う
11	デノミネーションについて	33	ペットを飼うことの問題
12	自然破壊について	34	交通事故
13	ぼくたちの遊びについて	35	座席を譲ることについて
14	ぼくの苦心談	36	人間としての常識
15	福祉問題	37	受験について
16	(未提出)	38	私の悩み
17	自転車通学	39	何を求めて
18	医者について	40	学校生活について
19	部のあり方について	41	平針住宅近辺について
20	高校野球について考える		

高2B　(男子)			
		12	デカルトの哲学
1	一人旅に出よう	13	人間の価値について
2	電柱と日本	14	日本の入試制度と大学
3	虚構の世界		
4	戦争体験者と若者	15	人間の弱点
5	新幹線公害を考える	16	環境破壊を考える
6	父親の権威について	17	高校2・3年の相違と名大附属の特性
7	高等教育の重要性（学歴社会の必然）		
		18	戦争の罪
8	性格について	19	科学的と非科学的
9	ぼくのアメリカ・日本	20	人間の自由について
		21	スポーツマンシップということ
10	国家の違いと国民性		
11	お金と日本人――汚職問題を考える――		

(女子)			
22	将来への道（個性の生かし方）	34	幸福について
23	われわれの高校生活	35	周囲の中で自己をみつめる
24	包装の無駄を考える	36	学歴社会を考える
25	未熟さについて	37	人間としての生き方
26	永遠の平和のために	38	青春時代
27	受験体制と教育	39	日本人と外国人
28	人間の個性について	40	女性解放の歴史を通して
29	日本の新聞について	41	学歴社会の中で思うこと
30	私の学歴論	42	仲間　友情
31	私たち人間と夢	43	世界平和をめざして
32	今も残る戦場の傷あと	44	方言・共通語について
33	現代に生きて ――人間の能力の問題――	45	私の人生論

内容上の傾向としては，上の題名からも察せられるように，先に述べた評論・論説教材の内容から影響を受けたものが多く認められる。

② 表現上の傾向と問題点

○文章の長さ

（中２）平均3.3枚（400字）

（最高７枚，最低１枚）

（高２）平均6.2枚（最高12枚，最低２枚）

○段　落

• 段落が全然無いもの，又は一文ごとに改行したもの。

（中２）19名（26%），（高２）19名（15%）

• 段落が不適当なもの

（中２）47名（65%），（高２）39名（31%）

○句読点

• 句読点が全然無いもの，又は。と、の区別のないもの。

（中２）18名（26%），（高２）27名（21%）

• 句読点が不適当なもの全体

（中２）35名（51%），（高２）43名（34%）

○文末表現

「である」「だ」と「です」「ます」などの不統一なもの。

（中２）11名（16%），（高２）15名（12%）

○接続語，指示語

接続語と指示語の使い方が不適切なため文脈の乱れたもの。

（中２）10名（14%），（高２）６名（５%）

③ 評　価

主題，材料，構成，表現，表記の各観点においてそれぞれA，a，B，b，Cの５段階による分析的評点をつけ，さらに全体としての総合的評点（５段階）もつけることを試みた。評語は平均50～60字程度に全作品品に記した。

○総合的評価の結果

	A	a	B	b	C
中２	16%	25%	38%	15%	6%
高２	18%	35%	36%	8%	3%

㊟「C」は作品未提出の者のみ。

(3) 事後指導

①作品の処理　添削し評価した原稿は10月上旬に生徒に返却し，生徒の各自又は相互に推敲させた。評価の高かった作品は，さらに清書させ，文集として印刷した。

②未提出生徒の指導　９月末の時点で作品未提出者は，中２に５名，高２に２名あった。中２の生徒は，文章能力の低さが主な原因と考えられるが，意見・主張文ということで，むずかしく考え過ぎて，主題が決められなかったり，考えがまとめられなかったりしたようである。高２の生徒は，必ずしも能力がないわけではなく，大き過ぎる問題にとりくんだ結果，収拾がつかなくなり，中途で放棄したものであった。それらの生徒には，それぞれ，なぜ書けなかったか，その原因について考えたことを文章に書かせたうえ，個別的に面接指導を行なって一応のけじめをつけた。

③悪文および誤字の反省資料　文章表現上の反省資料として，中・高合わせて，悪文の実例（約50），誤字例（100字）をぬき出して印刷し，生徒全員に配布のうえ，訂正させる指導を行なった。ここには，接続語や指示語に対する不注意によって文脈が乱れた悪文例を二つだけぬき出しておく。

○「……工場排水などは水質汚濁の防止に関する法律が制定されているにもかかわらず，一つの工場ぐらいから流れてくるくらいでは何ともないだろうと流したり基準以上のものを流してはいけないものを流してもどういう公害を起こすか法律などに定められてもわからないから流すから基準以上のものや流してはいけないものを流すとどうなるかなどをよく説明してから法律を作る必要がある。……」（中２男）

○「……ある有名画家の展覧会を見に行ったとき，過熱気味の混雑ぶりであった。人々の教養が高まるよい傾向であるといえる。しかしそこで人々をみているうちに必ずしもそうではないことがわかってきた。列に並んでじっくり鑑賞するひまもなく移動させられる不平をもらしている人がいたが，それはそういう見方にではなく，絵に対してであった。……」（高２女）

なお，悪文の指導については，中学生の場合とくに，

指導の結果逆に文章表現の意欲や自信を失わせることのないように注意する必要がある。

5. 課題小論文指導

前述の，評論・論説（意見・主張）の作文指導を終えた後に，10月下旬に，いわゆる課題小論文形式の作文指導を試みた。

中２，高２それぞれ，課せられた題目に従って原則として800字程度の文章を50分以内で書くようにさせた。各クラスに課した題目は次のようである。

○中２Ａ「生徒と教師とのあいだ」
○中２Ｂ「友情」
○高２Ａ「私にとって青春とは何か」
○高２Ｂ「私の理想とする高校生活」
○高２Ｃ「私の生きがい」

文章の結果をみると，表現上の傾向として，夏休み宿題の文章よりは全般的に誤りが少くなり，まとめ方がよくなった。しかし，題目・字数・時間等の制約によって，文章の完結しないもの，短かすぎるもの，また長すぎるもの等が，中２に約30％，高２に約15％認められた。

6. 論文的文章の表現に対する生徒の反応

以上に述べた，２回の作文に対する生徒の意識については，11月初旬，アンケートにより調査した。その結果を簡単に記しておきたい。

(1)「自由題の評論・論説（意見・主張）文を書いてどう思ったか」

「非常に，又は，かなりやりがいを感じた」という者は，中２ 49％（男子41，女子57），高２ 35％（男子33，女子36）。これに対して，「あまり，又は，全く感じなかった」という者は，中２ 18％（男子11，女子24），高２ 43％（男子47，女子39）で，「わからない」は，中２ 33％，高２ 23％であった。

(2)「課題小論文を書いてどう思ったか」

「非常に，又は，かなりやりがいを感じた」という者は，中２ 45％（男子33，女子55），高２ 34％（男子28，女子39）。これに対して，「あまり，又は，全く感じなかった」という者は，中２ 29％（男子33，女子25），高２ 42％（男子47，女子38）。「わからない」は，中２ 33％，高２ 23％であった。

(3)「自由題の場合と課題の場合とを比較してどちらが書きやすいと思ったか」

「自由題」と答えた者，中２ 38％，高２ 24％
「課　題」　〃　中２ 27％，高２ 43％
「わからない」　〃　中２ 35％，高２ 33％

(4)「自由題の評論・論説文を書きあげるうえで特に苦労したこと，勉強になったと思うことは何か」

（高校のみ）

①「苦労したこと」―― 自分の考えをいかにまとめるかという，構想に関することが最も多く，次いで題材の選び方に関すること，第３に，資料の集め方に関すること，という順序であった。

○「うまく書けないので論文恐怖症になった。」○「論文の中で書いたことと，現実の自分との隔たりが大きて気はずかしい，矛盾を感じる。」等

②「勉強になったと思うこと」

○「長文を書く技術に自信がわいてきた。」○「資料を調べたり考えたりしているうちに，自分の考えの整理ができた。又，論文を書きあげるには，その事に精通していなければならぬことがわかった。」○「広範囲のことに関心をもつようにし，おっくうがらずに書いてみることが大切だと思った。」○「漢字を正確に書くようになり，辞典でよく調べるようになった。」等

参考文献

大槻一夫「意見・主張　指導の意義と方法」（『中学校国語科教育講座第４巻』有精堂）
大矢武師「主題の確立」（『現代作文講座⑦』明治書院）
米山　誠「表現意欲を喚起する作文教育の研究」（『名大附属学校紀要第21集』）
大出　晃『日本語と論理』（講談社 現代新書）
加藤秀俊『自己表現』（中公新書）
谷崎潤一郎『文章読本』（中公文庫）